



正月気分も薄れ、やっと家庭にも平凡な生活がもどって来ました。3日は「節分、(豆まき)——悪霊をはらいのけ、幸福の女神を迎え入れたいものです。4日は「立春、——暦の上では早や「春、ですが、まだまだ寒さが続きます。11日は「建国記念日、——『建国をしのび、国を愛する心を養う』とありますが、果たしてどうでしょう？単なる「祭日、に終わっているような気がします。23日は「ふみの日、電話が普及し、ふだんはあまり書かなくなった手紙ですが、知人に封書などで近況を知らせたりするのも、気分が違ってまた良いものです。28日からは「春の全国火災予防運動、が始まります。例年2月の末になると「春一番、といつて雨の強い風が吹き荒れ、初夏を思わせる暖かい日になります。海・山の避難事故や大火に見舞われることがあります。くれぐれも注意してください。いよいよ「受験シーズン、到来。夏休みも、正月もなかった受験生のみなさん、おもいきり自分の力を発揮し、悔いの残らないようにしてください。そのためにはカゼなどひかず、十分睡眠をとることです。行政は今、比江山の造成工事など55年度のいろいろな事業の仕上げの時期に入り、私たちを取りまく環境は着々と変化しています。中旬には、そろそろ「梅、もほころびはじめ、待ちどうしかった「春、ももうすぐそこ!!

教育相談余話

どもる子ども

南国市教育相談所 高石文一

明日から二学期が始まるという夏休み最後の日、お母さんが小学一年生の子どもを連れて来た。「よく思い切つて来てくれました。夏休み中なら毎日来たのに、今日来られるというのは、よくよくのことでしょうね。」  
「はい。わかっていてもなかなか来れませんでした。やっぱり思い切つて。今日来なければ、もう来る日がないような気がして……」  
実は、この子は「どもる」くせがあるのです。言葉を話さなかったのが二歳頃と、遅れて気がつかっていましたが、四歳頃からもり



程のことではないのですが、この時お母さんが「まだどもっている。まだどもっている」と強く注意し始めたと思います。一年生になつてもなおらないので困っています。動物の絵を出して、「これは何ですか?」「イー……イヌ、ササ……サル、ネネ……ネコ」となる。言葉の初めに軽いひきつけがあつて間をとる。  
「どもりには軽いものです。ただ問題は、七歳だということ。三歳の子どもになら多く見られます。急ぐ時、どうしても伝えたい気持ちの強い時にもつたり、そつたりするものです。子どもの言葉の発達には幅があつて、その頃ならさして気にする

たり、引きのばしてアーとかウーとか言います。これもどもりの一種ですが、アーとかウーとか言いながら総理大臣になつた人も評判がよく、国際的なひのき舞台でもこれでおし通しました。立派なめだというのではなないのです。けれど、なおるものならなおしてあげたいですね。  
八歳になれば今までのところ、どももむつかしいとされています。なおらなかつたという例が多いのです。八歳になるとむつかしい。しかし今七歳です。しかも二学期初めです。これが最後の機会です。やってみますか。成否は五分と五分というところです。「これからどうすればよいのですか。」「放課後、毎日お母さんが連れて

来ることです。一日も休まないこと、お母さんが必ず来ること、できますか。」「できます。」「期間は十二月末まで。およそ百回。百回お母さんが連れて来ていただきますとまとまったものになりません。」「どんな訓練をしようか。」「これが言葉の訓練だとわかるような特別なことをしますと、本人も精神的な負担、重荷になり長続きしません。ただお母さんと楽しい時間をすごしていると感じさせておくのがいいのです。ここに数えうたがあります。読めるでしょう。読んでごらん。」「いい……いちわのからすが、かか……かあかあ。と字は読める。」「読みやすいように、節をつけて言つてもいいですよ。おもしろいでしょう。」「は……はい。おお……おもしろい。」「だんだんじょうずになりますよ。書いたものをあげますから、お母さんといっしょに、いつでもどこでも大きな声で言つてください。次に親子でボール遊びをします。ボールを打つ時、エイッと掛声をかけること。だまって打たないこと。始めてください。」「ここではエエ……エイツではない。すぐエイツといえる。改善の見込みはある。」「それでは今日はこれでおしまい。学校のように号令をかけて。」「きき……きりつ。れれ……れい。」「ではまた明日、元気でおいで。」「二週間目にお父さんが来られた。」「お父さんが来られるということ。」「お父さんが来られると、一週間通つて来ただけでも、どもらずに言えることが少しずつ多くなつてい

南国歌壇

若厚き祠めぐれる常緑樹の  
葉むらしづく冬身を抱く  
西野田 吉川定字  
結ばれし強き絆も柵に  
眠かれし逢いよ今は亡きひと  
植野 水野美由  
胸なる老のいたみもしなやかに  
つゝむか小春日母の残年  
前浜 沢田千恵子

南国柳壇

ワゴンセール華やぐ街に托鉢の  
僧寂びさびと鐘ならしゆく  
岡豊町 武橋信子  
山峽を雪は覆ふも陽炎は  
ハウスにゆれて日足のびゆく  
岡豊町 池添利江  
行きすりに寄りたる古き禅寺を  
守りて繁れる孟宗竹林  
久礼田 田村恵美子

南国俳壇

爪切を貸せと課長もひまな午後  
もう五分朝寝の床をぬきけし  
岡豊町 橋田井波  
訪問の親善土産に尾長鶏  
立田 北村幸江  
嫁が来て我家のメニューも  
一つ増え 三島 井沢正子

軒永柱風吹く方に曲りたる  
日の障子影の障子や廊長し  
除夜の鐘撞く刻を待つ焚火かな  
頰腹のあれこれ 秋の蝶 まとう  
黄唇は火の匂いする 斑鳩 秋  
トレンチコートは孤独な集団 高架下  
大枯野一糸まとわぬ滑走路  
枯れきつて男招く河口裏  
海への径尽ききさらりと十二月

高とさ枝 (柿の実会)  
大崎暢子 ( )  
公文茅恵 ( )  
別後敏子 (大鏡俳句教室)  
山崎光子 ( )  
森本 翔 ( )  
岡田昌子 (花柳俳句会)  
岡田とし子 ( )  
楠瀬秀子 ( )